

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100222
法人名	社会福祉法人 ひかりの里
事業所名	めだかの学校千塚公園西
所在地	甲府市千塚3丁目9-31
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 25 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 6 年 1 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地の中にあり昼夜問わず静かな環境にあり過ごしやすく、通学路に面しているため、小、中学生が登下校しており、近所には農作業を行っている住民の姿がある。徒歩5分の場所に公園があり散歩しやすく大きい公園なので、近所の人たちが散歩し、子供が遊んでいることが多くあります。ホームの敷地に畑と庭があり、コロナウィルスで外出の機械が減っているが、庭にて季節の行事をし、畑では季節の野菜を利用者様と植えている。利用者様のご家族にはホームで行った行事やホームでの生活の様子を写真で撮り千塚ふれあいだよりとしてご家族様に郵送している。散歩を行っている近所の方たちが挨拶をして下さったり、家の花壇を見せて下さり、地域住民との交流を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

環境面では、住宅地に立地しており、周辺には畑があります。日々の散歩の中で農作業に勤む地域住民とふれあう場面が感じられます。また、柿の収穫時には、職員と利用者が一緒に皮を剥いて干し柿を作る等、季節の感触を大切に支援が行われています。事業所の職員は、利用者一人ひとりの思いをとて大切に、真剣に向き合っていることを管理者から伺いました。看取りのニーズに対しては、事業所としてできる対応、法人との連携によってできる対応があり、積極的な取り組みがみられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)(※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活ができるように、全職員が理念を念頭に置き実施している。また、毎朝朝礼、月1回の職員会議を実施し、職員に周知徹底をし、地域に開かれた施設づくりを全員で取り組んでいる。	尊厳を大切にし、その人がその人らしく安心して生活ができるように、全職員が理念を念頭にお気実施している。また、毎朝朝礼、月1回の職員会議を実施し、職員に周知徹底をし、地域に開かれた施設づくりを全員で取り組んでいる。	事業所の理念は「一人ひとりの時間を大切に」「ここで良かったといえるホームをめざして」を掲げています。職員間の会話を大切にして、家庭的な雰囲気のもとで笑って過ごせる時間を、利用者と共有できるよう意識して取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板や地域住民、自治会長からの話を伺い行事の情報を頂いている。地域のお店を利用して社会資源活用を行っている。また、小学生の通学路となっているので、挨拶を交えている。	自治会に加入し、回覧板や地域住民、自治会長からの話を伺い行事の情報を頂いている。地域のお店を利用して社会資源活用を行っている。また、小学生の通学路となっているので、挨拶を交えている。	秋の文化祭には、利用者が手芸等の作品を出展し、作品を通して地域との関係を楽しんでいます。地域の店への買い物や、近所を散歩して住民と挨拶を交わしたり、畑の作物を見て楽しんだり、地域との繋がりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への積極的な参加や幼稚園の訪問により認知症の方との関わりの中で理解を求めている。運営推進会議の場では地域の方にも参加していただき、認知症の方に対する理解を求めている。	地域行事への積極的な参加や幼稚園の訪問により認知症の方との関わりの中で理解を求めている。運営推進会議の場では地域の方にも参加していただき、認知症の方に対する理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状や実施行事の場合、外部評価結果報告や災害時の対応、ヒヤリハット事例などを課題としてあげ、意見をいただいている。ご家族様にも積極的に意見を言っていただけるようにご家族に案内を送付し、会議への参加をお願いしている。また開催できない時には書面開催を行っている。	利用者の現状や実施行事の場合、外部評価結果報告や災害時の対応、ヒヤリハット事例などを課題としてあげ、意見をいただいている。ご家族様にも積極的に意見を言っていただけるようにご家族に案内を送付し、会議への参加をお願いしている。また開催できない時には書面開催を行っている。	運営推進会議には家族から2~3名が出席されており、事業所からの情報提供や家族からの意見や要望を伺っています。また、家族から外国人の職員の存在に対して、不安を抱いているとの意見が出されたが、外国人の職員の利用者支援に対する姿勢や実情を伝えることで、不安が解消されたとの話を伺いました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには運営推進会議に出席していただき意見やアドバイス、情報提供をしていただいている。介護相談員についても定期的に訪問して下さっている。	地域包括支援センターには運営推進会議に出席していただき意見やアドバイス、情報提供をしていただいている。介護相談員についても定期的に訪問して下さっている。	市町村との関係については情報交換と情報共有をこまめに行っています。介護相談員が定期的に訪問されて、その際にアドバイス等をいただいています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束対策委員会を開催、内部研修などで全職員が身体拘束を正しく理解し、どういった行為が身体拘束にあたるか職員に対し徹底をしている。参考資料や情報なども随時回覧し、全職員に身体拘束の意識付けをしている。	3か月に1回身体拘束対策委員会を開催、内部研修などで全職員が身体拘束を正しく理解し、どういった行為が身体拘束にあたるか職員に対し徹底をしている。参考資料や情報なども随時回覧し、全職員に身体拘束の意識付けをしている。	2ユニットによる会議を実施して、職員の処遇の中でも、身体拘束に係る内容について意見交換をしています。ペット2点柵等やむを得ない時は家族の了解を得て実施していますが、記録に残していないとのことですので、マニュアル化が望まれます。	身体拘束については、事業所内で会議の中でしっかりと話し合われています。ペットの2点柵についても、むを得ない場合の対処として家族の同意のもとで実施されています。これからは、いつ、誰が、どの時間帯で実施したのか記録を残すことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回高齢者虐待防止委員会を開催し、利用者の尊厳を大切にし、身体的虐待はもちろんのこと、職員がお互いに不適切なケアを指摘し合え、助け合える関係づくりに励み、言葉の暴力やネグレスト、グレーゾーンについても注意をするように職員に周知し、職員同士虐待を行わないため連絡体制を徹底している。	3か月に1回高齢者虐待防止委員会を開催し、利用者の尊厳を大切にし、身体的虐待はもちろんのこと、職員がお互いに不適切なケアを指摘し合え、助け合える関係づくりに励み、言葉の暴力やネグレスト、グレーゾーンについても注意をするように職員に周知し、職員同士虐待を行わないため連絡体制を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している方もおり、今後より深く日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めて行く。	現在成年後見人制度を利用している方もおり、今後より深く日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ必要があると感じるため、勉強会や研修などに参加する機会を持ち知識を深めて行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書をもとに苦情解決窓口の説明や金銭管理、その他の必要事項を利用者、家族にできる限り分かりやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不安な点について必ず確認を行っている。	契約書、重要事項説明書をもとに苦情解決窓口の説明や金銭管理、その他の必要事項を利用者、家族にできる限り分かりやすく説明を行っている。入所にあたっての疑問点や不安な点について必ず確認を行っている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や面会時の会話、ご家族様との電話のやり取り、介護相談員からの情報などを利用し、利用者やご家族様ができる限り意見や要望などを言いやすい環境作りを心がけ、また要望があった際には迅速に繁栄できるように努力をしている。玄関に意見書の設置を行っている。	運営推進会議の場や面会時の会話、ご家族様との電話のやり取り、介護相談員からの情報などを利用し、利用者やご家族様ができる限り意見や要望などを言いやすい環境作りを心がけ、また要望があった際には迅速に繁栄できるように努力をしている。玄関に意見書の設置を行っている。	運営推進会議や、日々の面会等から意見を頂く仕組みになっています。家族からは、整容に関する要望等、職員が気づかないことを指摘してくれるとのことです。オムツ代が高いとの意見に対しては、使った量をお知らせして理解を得ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議、各委員会や業務の中で行事の実施等要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境づくりに務めている。	職員会議やユニット会議、各委員会や業務の中で行事の実施等要望を反映させている。勤務時間や業務内容に関しても改善点や提案など話しやすい環境づくりに務めている。	職員からは事業所内で不足している備品や物品についての意見が出され、必要なものは順次取り入れられています。職員から意見が言いやすい環境が整えられています。職員の業務遂行上の悩みでは、時としてユニット間の異動により、改善されることがあるとのことです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の休日や勤務時間の希望などを考慮し、勤務表の作成を行っている。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。職員が動きやすい環境作りにも管理者はじめ各職員で取り組んでいる。	各職員の休日や勤務時間の希望などを考慮し、勤務表の作成を行っている。昇給についても能力や資格の取得、やる気に応じて行っている。職員が動きやすい環境作りにも管理者はじめ各職員で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では月1回の職員研修と年6回の内部研修を開催しており、事業所でも勉強会を実施し、技術や知識が習得できるよう機会を設けています。また外部での研修に参加して勉強会にて発表をしている。現在介護福祉士の資格取得を目指している職員もいる。	法人では月1回の職員研修と年6回の内部研修を開催しており、事業所でも勉強会を実施し、技術や知識が習得できるよう機会を設けています。また外部での研修に参加して勉強会にて発表をしている。現在介護福祉士の資格取得を目指している職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の受け入れ等を行い相互に質の向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供も頂いている。	実習生の受け入れ等を行い相互に質の向上を目指して取り組んでいる。また法人内の他事業所とも交流を相互に行っている。地域包括支援センターを通じて他事業所の取り組みや情報提供も頂いている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に務めている。ご家族様にも協力してもらい過去の習慣等の情報を教えていただき、個別対応し、生活の中で見えてくる隠れたニーズも見逃さないようにしている。	本人との信頼関係を構築した上で積極的に関わりを持ちニーズの把握に務めている。ご家族様にも協力してもらい過去の習慣等の情報を教えていただき、個別対応し、生活の中で見えてくる隠れたニーズも見逃さないようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き介護に反映している。入所後も面会や来訪の際などに関わりをもち、事業所だよりと近況報告を兼ねた直筆の手紙を郵送している。	入所前の面談から入所に対する不安や要望などを聞き介護に反映している。入所後も面会や来訪の際などに関わりをもち、事業所だよりと近況報告を兼ねた直筆の手紙を郵送している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には本人と家族様の主訴は何かを見極め、本人がどういった生活を送りたいか、ご家族様がどういった生活を送ってほしいかを聞き、要望や思いに沿えるよう務めている。法人内外問わず、その方に合ったサービス提供ができるように他事業所のサービスも紹介している。	サービス開始時には本人と家族様の主訴は何かを見極め、本人がどういった生活を送りたいか、ご家族様がどういった生活を送ってほしいかを聞き、要望や思いに沿えるよう務めている。法人内外問わず、その方に合ったサービス提供ができるように他事業所のサービスも紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事活動や軽作業は積極的に行ってもらっている。料理や盛り付け、片付け、洗濯、掃除までできる範囲で行ってもらい、家庭での生活で欠かせないことを当たり前できるように支援している。	少しでも家庭での生活に近づけられるよう、家事活動や軽作業は積極的に行ってもらっている。料理や盛り付け、片付け、洗濯、掃除までできる範囲で行ってもらい、家庭での生活で欠かせないことを当たり前できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の安定した生活はご家族の支えや協力を得なければ実現しないということをご家族様に伝え、面会や行事への参加、運営推進会議への出席等、関わりを多く持ち協力を依頼している。施設の美化作業も協力していただいている。	利用者の安定した生活はご家族の支えや協力を得なければ実現しないということをご家族様に伝え、面会や行事への参加、運営推進会議への出席等、関わりを多く持ち協力を依頼している。施設の美化作業も協力していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通っていた病院などの利用を依頼したり、家のことが心配な方がご家族様の了承を得て、職員と一緒に自宅の様子を見に行ったり馴染みの場所等関係が寸断され内容に個別で支援している。また昔からの友人や知人と電話で話され、関係性の継続を支援している。	以前から通っていた病院などの利用を依頼したり、家のことが心配な方がご家族様の了承を得て、職員と一緒に自宅の様子を見に行ったり馴染みの場所等関係が寸断され内容に個別で支援している。また昔からの友人や知人と電話で話され、関係性の継続を支援している。	医療機関への受診の際に、行きたい場所や会いたい人に会えるような配慮がなされています。また、慣れ親しんだ店で食事をする等の機会が提供されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事を通じて利用者同士の会話が増えるよう職員がパイプ役になって支援している。フロアや居室で利用者同士が会話ができる環境整備を行っている。自室で過ごすことの多い利用者様には無理のない範囲で声かけや誘導を行い、孤立しないように支援している。	日常生活や行事を通じて利用者同士の会話が増えるよう職員がパイプ役になって支援している。フロアや居室で利用者同士が会話ができる環境整備を行っている。自室で過ごすことの多い利用者様には無理のない範囲で声かけや誘導を行い、孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院に契約解除となった場合でも、希望があれば退院後の行き先を一緒に探し、利用者、家族が困らないように支援している。またいかなる場合の退所であっても随時相談を受け付けていることを退所時に必ず伝えている。退所後も再入所の希望があれば対応を行っている。	長期入院に契約解除となった場合でも、希望があれば退院後の行き先を一緒に探し、利用者、家族が困らないように支援している。またいかなる場合の退所であっても随時相談を受け付けていることを退所時に必ず伝えている。退所後も再入所の希望があれば対応を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族にどのような生活を送りたいか希望を聞き、生活歴やバックグラウンドの把握、今現在本人の思いや意志をできる限り汲み取ることができるよう関わりを持っている。何事にも利用者本位の考えで支援をしている。	本人と家族にどのような生活を送りたいか希望を聞き、生活歴やバックグラウンドの把握、今現在本人の思いや意志をできる限り汲み取ることができるよう関わりを持っている。何事にも利用者本位の考えで支援をしている。	日々の会話や毎日の記録から思いをくみ取り、ユニット会議において、一人ひとりの思いについて出し合い、共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族から生活歴を聞き、生活の中で見えてくるその人の特徴やその人らしい生活の仕方等の把握に務め、職員間で共有できるように会議等で周知している。またこれまで利用していたサービス事業所～情報を頂くこともある。	入所前にご家族から生活歴を聞き、生活の中で見えてくるその人の特徴やその人らしい生活の仕方等の把握に務め、職員間で共有できるように会議等で周知している。またこれまで利用していたサービス事業所～情報を頂くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リハビリを兼ねて家事活動を中心に利用者とともに行っており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に務めている。また継続して行うことでその日の状態やできること、できないことの把握ができ、都度職員間で情報を共有している。できる限りしてあげる介護ではなく待つ介護を心がけている。	生活リハビリを兼ねて家事活動を中心に利用者とともに行っており、その中でその人の有する能力や心身状態の把握に務めている。また継続して行うことでその日の状態やできること、できないことの把握ができ、都度職員間で情報を共有している。できる限りしてあげる介護ではなく待つ介護を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時本人、ご家族様に希望を聞きプランに反映させている。如遇会議以外でも日々気づいたことは各ユニットで話し合いを行い、計画に反映できるように務めている。	計画作成時本人、ご家族様に希望を聞きプランに反映させている。如遇会議以外でも日々気づいたことは各ユニットで話し合いを行い、計画に反映できるように務めている。	介護計画は、現場職員との情報共有を行う中で、ケアマネが作成しています。法人各事業所の管理者とケアマネの会議があり、介護計画について意見交換の場が持たれています。利用者の情報共有の際には、書かれた内容について、全ての職員が閲覧したことがわかるようなチェック体制が望まれます。	利用者に係る様々な情報は、引継書や会議録の中で確認されています。交代勤務という複雑な勤務体制の中で、共有すべき情報を閲覧する際に、職員が確実に内容を確認したことがわかるような方法の検討をお願いします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報共有をできるように工夫している。如遇会議での内容を含め、現場からの声を大切にし、その人にとって最善の方法や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の日々の様子やケアについて、毎日個別の記録に残し、情報共有をできるように工夫している。如遇会議での内容を含め、現場からの声を大切にし、その人にとって最善の方法や介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に抱えているニーズが異なるため、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスを行っている。受診介助の代行や個別の買い物等、その時々生まれる個別のニーズに対応している。時間に捉われずその人のペースで離床や食事ができるように支援し、食事の嗜好品についてもできる範囲でニーズに答えている。	個別に抱えているニーズが異なるため、まずはニーズの把握に努め、事業所でできる範囲のサービスを行っている。受診介助の代行や個別の買い物等、その時々生まれる個別のニーズに対応している。時間に捉われずその人のペースで離床や食事ができるように支援し、食事の嗜好品についてもできる範囲でニーズに答えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別の地域資源を把握し、入所することにより地域との繋がりが寸断されず、継続ができるように支援している。ご家族様の同意を得て自宅の近所付き合いや馴染みの店当できる範囲で訪れたり、なるべく面会を行えるように支援している。	個別の地域資源を把握し、入所することにより地域との繋がりが寸断されず、継続ができるように支援している。ご家族様の同意を得て自宅の近所付き合いや馴染みの店当できる範囲で訪れたり、なるべく面会を行えるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人、ご家族様に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望を聞いている。法人内にもクリニックがあることを伝え希望があった方については主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。また、希望により主治医の往診を受けている。	入所時にご本人、ご家族様に今までのかかりつけ医や今後の主治医の希望を聞いている。法人内にもクリニックがあることを伝え希望があった方については主治医を移行し健康管理のフォローを行っている。また、希望により主治医の往診を受けている。	多くの利用者が法人の医療機関を利用されています。かかりつけ医への通院では職員が家族と医療機関で待ち合わせ、情報の提供や引継ぎがしっかりと行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員には利用者のちょっとした変化に気づけるよう日常生活の関わりの中から利用者を観察するよう指導している。気づいた点は随時管理者、看護師に報告、相談をし受信が必要な場合には適切に医療が受けられるように支援し、受診が困難な場合は医師、家族に相談し往診対応ができるように支援をしている。	職員には利用者のちょっとした変化に気づけるよう日常生活の関わりの中から利用者を観察するよう指導している。気づいた点は随時管理者、看護師に報告、相談をし受信が必要な場合には適切に医療が受けられるように支援し、受診が困難な場合は医師、家族に相談し往診対応ができるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には情報提供を病院に行い入院中は病院、ご家族様と連携を取り合い、退院時にもスムーズに退院できるように務めている。また退院時には医療面だけでなく必要に応じてPTやOT、管理栄養士や地域連携室当から情報を頂き、担当者会議を行うようにしている。	利用者が入院した際には情報提供を病院に行い入院中は病院、ご家族様と連携を取り合い、退院時にもスムーズに退院できるように務めている。また退院時には医療面だけでなく必要に応じてPTやOT、管理栄養士や地域連携室当から情報を頂き、担当者会議を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族や本人の意見を聞くとともに法人内の特養や療養型とも連携をとっていることを説明し、広い選択肢の中から方向性を決めてもらえるようにしている。看取りについてもここまで希望があればグループホームで可能な限り対応し利用者、家族、主治医、訪問看護、職員間での連携をとっている。施設における看取り事例もあり、現在看取りを希望されている方もある。	入所時にご家族や本人の意見を聞くとともに法人内の特養や療養型とも連携をとっていることを説明し、広い選択肢の中から方向性を決めてもらえるようにしている。看取りについてもここまで希望があればグループホームで可能な限り対応し利用者、家族、主治医、訪問看護、職員間での連携をとっている。施設における看取り事例もあり、現在看取りを希望されている方もある。	家族からの看取りのニーズに対して、体制を整え応えています。しかし、事業所では抱えきれない医療的なケアが必要な方に対しては、法人の医療機関に繋いでいます。法人の各種事業形態との連携の中で、看取りケアが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応、救急法と年間2回の研修を実施し、各職員のスキルアップに務めている。会議でも緊急時の事例や事故発生時の対応方法を徹底している。事故を未然に防ぐためにヒヤリハット記入を行い委員会で話し合い、職員全員に周知徹底をしている。	緊急時の対応、救急法と年間2回の研修を実施し、各職員のスキルアップに務めている。会議でも緊急時の事例や事故発生時の対応方法を徹底している。事故を未然に防ぐためにヒヤリハット記入を行い委員会で話し合い、職員全員に周知徹底をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、夜間想定、地震、火災、水害等の訓練を行っている。地域の避難訓練にも参加し、方がーの時は地域の方にも災害時の協力要請をお願いしている。防災研修や水消火器を使った訓練等も実施している。福祉避難所として登録している。	定期的に避難訓練を実施し、夜間想定、地震、火災、水害等の訓練を行っている。地域の避難訓練にも参加し、方がーの時は地域の方にも災害時の協力要請をお願いしている。防災研修や水消火器を使った訓練等も実施している。福祉避難所として登録している。	災害時の一時避難所は近くの公園が指定されています。避難訓練では他事業所の施設長が応援に来てくれており、法人間の連携がとられています。地域の消防団との協力体制はできていないことですので、運営推進会議を通しての体制づくりが望まれます。	災害時の避難については、マンパワーが必要で、運営推進会議の場を活用して、災害時の相互支援に関する協定的なものを地域と結ぶことができると、更に安心かと思えます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が人生の先輩であるという気持ちで、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。業務中でのOJTや研修、身体拘束委員会、虐待防止委員会の会議でも声掛けや接し方等の指導を職員に対して行い、職員同士が注意しあう関係性を築いている。	利用者が人生の先輩であるという気持ちで、その人の人格やプライドが傷つかないように接している。業務中でのOJTや研修、身体拘束委員会、虐待防止委員会の会議でも声掛けや接し方等の指導を職員に対して行い、職員同士が注意しあう関係性を築いている。	事業所では、排泄時に周囲から見られない対応、トイレを強調しない言葉の掛け方に配慮し、マニュアル化しています。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の気持ちを大切に利用者が遠慮せず話せる雰囲気づくりに努め、希望を聞く際は人によって質問方法や声掛けを工夫している。生活の中での選択時には自己決定できるようにしてあげる介護から待つ介護を心がけている。	個人の気持ちを大切に利用者が遠慮せず話せる雰囲気づくりに努め、希望を聞く際は人によって質問方法や声掛けを工夫している。生活の中での選択時には自己決定できるようにしてあげる介護から待つ介護を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護するにあたり、まずその人のことを良く知り、よく見ることを心掛けている。その中で昔からの馴染みのあることや生活リズムを個々に把握し処遇を行っている。行事の実施も利用者希望を聞きながら内容を検討し、実施している。	介護するにあたり、まずその人のことを良く知り、よく見ることを心掛けている。その中で昔からの馴染みのあることや生活リズムを個々に把握し処遇を行っている。行事の実施も利用者希望を聞きながら内容を検討し、実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら行事の際や外出の際にお化粧をさせていたが、あくまでも本人自身のおしゃれができるように支援している。日々の身だしなみについても衣類の選択等できる範囲で本人に行ってもらい、自立支援に務めている。	本人の希望を聞きながら行事の際や外出の際にお化粧をさせていたが、あくまでも本人自身のおしゃれができるように支援している。日々の身だしなみについても衣類の選択等できる範囲で本人に行ってもらい、自立支援に務めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等は職員と一緒にしている。ほうとうや太巻き作り、団子やおはぎ作り等季節感のある昔ながらの料理やおやつも一緒に手作りしている。自由メニューやスイーツバイキング、寿司パーティーなどを希望を聞きながら実施している。	利用者の能力に応じて食事の準備や片付け等は職員と一緒にしている。ほうとうや太巻き作り、団子やおはぎ作り等季節感のある昔ながらの料理やおやつも一緒に手作りしている。自由メニューやスイーツバイキング、寿司パーティーなどを希望を聞きながら実施している。	食事は業者に食材を発注して、事業所内で手づくりの食事を提供しています。イベント食としてバイキング食、寿司パーティー、ケーキパーティー、お汁粉パーティー等が企画されています。事業所の敷地に菜園を設けて、ジャガイモやキュウリを利用者と一緒で栽培して、収穫の喜びを体感しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事、おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックも行っており、バランスよく栄養が摂れるように努めている。また体重の増減も指標の一つにしており、嗜好品の提供等その時々に応じた支援を行っている。	個々の状態に合わせた食事、おやつを提供を行っている。食事量や水分量のチェックも行っており、バランスよく栄養が摂れるように努めている。また体重の増減も指標の一つにしており、嗜好品の提供等その時々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず実施し、個別に解除する方や自身でできる方の把握、義歯や口腔内の状態を個別に把握している。週1回程度の歯科往診診療時に歯科医師や歯科衛生士より歯磨きのアドバイスを頂いたり、ここに合った歯ブラシの選択、拭き上げ等清潔保持できるよう支援している。	食後の口腔ケアは必ず実施し、個別に解除する方や自身でできる方の把握、義歯や口腔内の状態を個別に把握している。週1回程度の歯科往診診療時に歯科医師や歯科衛生士より歯磨きのアドバイスを頂いたり、ここに合った歯ブラシの選択、拭き上げ等清潔保持できるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のペース、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートを用いて個別に声掛け、できるだけトイレで排泄が行えるよう誘導を行っている。おむつやパットの使用も見直しを行いその人にとって自立が目指せるよう支援している。おむつを使用せず布パンツを使用している方もいる。	個別の排泄パターンを把握し、排泄チェックシートを用いて個別に声掛け、できるだけトイレで排泄が行えるよう誘導を行っている。おむつやパットの使用も見直しを行いその人にとって自立が目指せるよう支援している。おむつを使用せず布パンツを使用している方もいる。	排泄の自立支援の一環として、寝た状態の利用者でも便座に座ってもらう取り組みをされています。夜間は、時間によるトイレ誘導の利用者と、移動の難しい利用者はポータブルトイレによる介助が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄に関してはチェックシートを用いて個別チェックし、そのお方の排泄リズムの把握やトイレで排泄ができるように支援を行っている。できる範囲で下剤に頼るのではなく、水分摂取や運動、乳製品の活用等の対応を行っている。	排泄に関してはチェックシートを用いて個別チェックし、そのお方の排泄リズムの把握やトイレで排泄ができるように支援を行っている。できる範囲で下剤に頼るのではなく、水分摂取や運動、乳製品の活用等の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はできる範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。個浴にて一番風呂が良い方や最後にゆっくり入りたい方、熱め、ぬるめが好きなど個々の希望に応じた個別の支援を実施している。週2、3回は入浴して頂ける用に実施している。	入浴はできる範囲で利用者の希望や体調を聞きながらその日の入浴者を決めている。個浴にて一番風呂が良い方や最後にゆっくり入りたい方、熱め、ぬるめが好きなど個々の希望に応じた個別の支援を実施している。週2、3回は入浴して頂ける用に実施している。	入浴が楽しめるよう、湯温の調整や、冬至にはゆず湯が提供されています。入浴に拒否のある方には、言葉がけを工夫することで入浴に繋げています。介助は同性介助にとらわれず、異性による介助が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動量を増やし夜間の睡眠に繋がられるように努めている。また体調に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。居室の空間も本人が安心できるように家族写真や馴染みの家具などを設置する等の工夫をおこなっている。	日中はできるだけ活動量を増やし夜間の睡眠に繋がられるように努めている。また体調に応じて日中の睡眠も時間を決めて行っている。居室の空間も本人が安心できるように家族写真や馴染みの家具などを設置する等の工夫をおこなっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

めだかの学校千塚公園西

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の記録に内服薬の情報が綴っており、副作用や用法、用量当すぐに確認できるようにしている。また受診の際には内服薬による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記載し職員全体で情報共有し把握に努めている。	個別の記録に内服薬の情報が綴っており、副作用や用法、用量当すぐに確認できるようにしている。また受診の際には内服薬による状態変化や医師の指示などを受診ノートに記載し職員全体で情報共有し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や生活歴などを把握し、料理や畑仕事、習字、編み物等その人にとって楽しみとなっていることが日常生活の中で自然にできるように支援している。また日常生活の中で気分転換としても活用している。	その人の趣味や生活歴などを把握し、料理や畑仕事、習字、編み物等その人にとって楽しみとなっていることが日常生活の中で自然にできるように支援している。また日常生活の中で気分転換としても活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物や住んでいた地域等、家族の協力を頂きしえんを行っている。ご家族様との外出を希望される場合は柔軟に対応している。また近くの公園への散歩を行っている。施設内の庭において行事や散歩もやっている。	個別の希望によって自宅の様子を見に行ったり、個人の買い物や住んでいた地域等、家族の協力を頂きしえんを行っている。ご家族様との外出を希望される場合は柔軟に対応している。また近くの公園への散歩を行っている。施設内の庭において行事や散歩もやっている。	日常の散歩では千塚公園に行かれています。また、外出の難しい利用者は、庭へ出て外気浴を楽しんでいます。コロナが5類になったことで、今後は花見や季節の外出を取り入れていきたいとの意向です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もおり、所持していることでその方の安心感と自身につながっている事例もある。自己管理ができない方は施設においてお小遣いの管理を行っている。	利用者、家族の希望にてお金を所持している方もおり、所持していることでその方の安心感と自身につながっている事例もある。自己管理ができない方は施設においてお小遣いの管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては利用者の家族や友人に対して希望があった場合支援している。手紙も希望があれば月1度本人に聞きながら家族への手紙を送っている。代筆する方もいるが直筆で書ける方は自身で書いてもらっている。	電話に関しては利用者の家族や友人に対して希望があった場合支援している。手紙も希望があれば月1度本人に聞きながら家族への手紙を送っている。代筆する方もいるが直筆で書ける方は自身で書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品や季節の花等を飾り、季節を感じて居心地が良く、快適に生活ができるように配慮している。また庭や畑を見て季節を感じられるように野菜や花を植え、窓際に椅子を置くなどを行い、いつでも屋外が見られるように配慮している。共用空間では料理の匂いや話し声等が聞こえて、居心地の良い環境に努めている。	利用者の作品や季節の花等を飾り、季節を感じて居心地が良く、快適に生活ができるように配慮している。また庭や畑を見て季節を感じられるように野菜や花を植え、窓際に椅子を置くなどを行い、いつでも屋外が見られるように配慮している。共用空間では料理の匂いや話し声等が聞こえて、居心地の良い環境に努めている。	利用者が共有空間で過ごす際は、ポツンとしていることがないように、出来るだけレクリエーションや体操に誘う等、楽しんで過ごせる時間を設けています。共有空間は、車いすや手押し車の利用者が、動きやすいよう家具等が整理されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや椅子を置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえるように配慮している。1階、2階のフロアをうまく使いながら1人で過ごせる場所や気の合う仲間が家具の配置を行い空間づくりに努めている。	フロアにソファや椅子を置き、利用者が自由に好きな場所で過ごしてもらえるように配慮している。1階、2階のフロアをうまく使いながら1人で過ごせる場所や気の合う仲間が家具の配置を行い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みのある家具を持参して頂けるようお願いし、布団や枕、鏡台、仏壇等を持ち込まれている方もいる。また、家族の写真を部屋に貼り、その人にとっての居心地の良い空間となりえるように配慮している。	居室には利用者が自宅で使い慣れた馴染みのある家具を持参して頂けるようお願いし、布団や枕、鏡台、仏壇等を持ち込まれている方もいる。また、家族の写真を部屋に貼り、その人にとっての居心地の良い空間となりえるように配慮している。	入居前から使いなれていた、利用者の思い入れの家具等が持ち込まれています。利用者の中には、ご自身の居室でテレビを見たり、新聞を見たり、ご本人なりに心地よく過ごせるような居室空間が作られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内での家事や軽作業ではできる範囲で利用者と一緒に、ADLだけに目を向けるのではなく安全を確認したうえでその人なりの自立を目指して支援を行っている。	事業所内での家事や軽作業ではできる範囲で利用者と一緒に、ADLだけに目を向けるのではなく安全を確認したうえでその人なりの自立を目指して支援を行っている。		